

浦小だより



令和5年度

5月号

令和5年4月27日発行

新型コロナウイルス感染症が5月8日に第5類に移行となり、インフルエンザと同等の扱いとなります。それでもリスクがないわけではありません。この後の修学旅行やバス遠足についても心配は絶えません。

4月の家庭訪問では大変お世話になりました。感染防止対策として、「玄関口で」と、人流をできるだけ少なくし、健康安全を第一に考え、お願いしました。保護者のみなさまのご理解・ご協力をありがとうございました

明後日のPTA参観日についても、児童の学校生活の一端を見ていただき、学習状況を確認していただくために、感染防止対策をとり、開催させていただきます。

ご家庭と学校が手を携えて子どもたちの教育にあたることが大切であることは言うまでもありません。どうか、気になることがありましたら、学校の方へご相談くださいますようお願い申し上げます。



☆キッズ活動顔合わせの様子
(異学年集団活動)

★「あとみよそわか」
 「あとみよそわか」とは、国語辞典によると「席を立つ時、忘れ物をしないように、また物事を成した後にその結果がどうかのよくなる見よと注意を促す語」とあります。

小説家、幸田露伴は娘の文へあやに鍛錬ともいえる厳しさで掃除を稽古させたそうです。雑巾の絞り方、その扱い方、バケツに汲む水の量まで細かく指導し、それが終わると「あとみよそわか」と呪文を唱えさせ、「もういいと思っても、もう一度見直してみよ」と躰をしたらそうです。ちなみに「そわか」とは「成就」を意味する梵語ですが、江戸時代の草双紙にも

『あとみよそわか』とあり、かなり古くからあった言葉らしいです。

そういう歴史的なことからも「あとみよ」とは、「跡を見てもう一度確認せよ」という単純な意味だけではなく、靴を脱いだら揃え、ご飯をいただいたらご飯粒ひとつも残さないなど、『日常の些細なことでも最後まで責任を全うする生き方の積み重ね』を表すのではないかと考えます。私がか切にする言葉であり、常に心がけていることの一つです。

私は、浦庄小学校での一日の勤務を終え、『日常の些細なことでも最後まで責任を全うできかたか』と、「あとみよそわか」と自分で問いかけています。周りの方に感謝の気持ちを添えて。

5月の行事予定

- 1(月)振替休業日
- 2(火)交通指導日
眼科健診(幼・1・4年・その他)
- 10(水)交通指導日・集金日
スクールカウンセラー来校
- 11(木)交通指導日(職)・
修学旅行(1日目)6年生
春の交通安全週間(~20日)
- 12(金)交通指導日(P)
修学旅行(2日目)6年生
- 12(金)バス遠足(1~5年)

- 15(月)交通指導日(職)
アルミ缶リサイクルデー
- 16(火)交通指導日(P)
- 17(水)交通指導日(職)
心電図検査(1年)
- 18(木)交通指導日(P)
1年生を迎える会(予定)
- 19(金)交通指導日・学校安全の日
クラブ活動⑥・PTA役員会19:00
- 23(火)交通安全自転車教室(予定)
- 24(水)スクールカウンセラー来校
内科健診(1.2年)
- 25(木)内科健診(3.4年)
尿検査(2回目,該当者)

- 30(火)ゴミ0の日
耳鼻科健診(全学年)
毎週月曜日朝会
毎週火・水曜日英語教室

6月の行事予定

- 2(金)授業参観日(予定)

※学校行事の様子は「浦庄小学校ホームページ」でもご覧いただけます。検索サイトから最新のホームページにアクセスしてください。
https://school.e-tokushima.or.jp/es_urashou

※新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、予定を変更することもあります。ご了承ください

休まず 心をこめ 力をあわせて やりとげよう

興道

校訓

校訓「興道」は、昭和61年(1986年)5月に(今から37年前)に制定されました。その翌年に私、山川は浦庄小学校で教員生活をスタートさせてもらっています。当時の校長先生であられた「近藤克弘」先生から、「興道」についていろいろと教えていただきました。

桜の下で新米教師の私は、最後列でいます



昭和62年浦庄小学校職員写真 近藤克弘校長先生

当時、近藤校長先生のお話では、「興道(こうどう)」とは、校歌で歌われているとおり、「道を興す(おこす)」という意味だそうです。「子供たちが将来自分の夢や希望に向かい、我が道を興す(おこす)ために小学校教育はその礎(いしづえ)を築かなければいけない。」ということを実、近藤校長先生は、おっしゃっていました。そのために、わかりやすい言葉で子供たちに伝えると「休まず 心をこめ 力をあわせて やりとげよう」となるということでした。もっと簡単に言うと「休まん続けることで、しかもいね～に、自分だけでなく学校の友達や先生と力をあわせることで(夢や希望)をなしとげることができるんじゃ。」ということです。新米の私も納得したものです。



興道館正面

左の写真は、昭和11年にできた「興道館」という建物です。この建物は、浦庄地域から大阪や東京などに出て暮らされていた方々が、母校やふるさと浦庄への愛情をもち、浦庄を出て苦勞しながら自立したことや、浦庄の子供が立派な人になるようにという思いで、作ってくださったそうです。(体育館の前方左壁面に看板が今も展示されています) その興道館の名前から興道を取り、校訓にしたのだそうです。

私は、それから浦庄小学校を振り出しに36年間教師生活を過ごさせていただきましたが、その集大成として、また浦庄小学校で勤務することができました。感謝の気持ちを忘れず、近藤校長先生の教を次のように自分なりに解釈し、先生方とともに浦庄小教育に励みます。

休まず心をこめ = ○自分に必要なことに気づき、こつこつとがんばる子を育てます

- ・自分が今必要なことは発達段階により違いはありますが、病気になったならその病気を治すことに専念するように、自分が今した方がよいことの判断ができ取り組めたら、それはその子のためになります。
- ・自分に必要なことにこつこつと取り組んで、自分のものとして進める力がもてる子を育てたいと思います。

そして、自分の夢や希望に向かって力強く歩んでくれる子供を育てればと思います。

力をあわせて やりとげよう = ○友達とともに伸びていく子を育てます。

- ・自分も友達も大切に思い、集団生活の中で伸びていく子を育てたいです。学び合うとはそういうことだと思います。そのためにも「ありがとう」と言い合える人間関係を育てていきます。いじめや差別、仲間はずれは許しません。

私が新米教師として、浦庄小学校でお世話になり学校を異動するときに、近藤

校長先生から色紙をいただきました。そこには、
 「興道 休まず 心をこめ 根の限り 師道に向って」
 「平成元年三月十七日 浦庄小学校長 近藤克弘」
 「山川育英先生」とありました。

私は、浦庄小学校勤務が決まったので、4月1日に近藤校長先生のご自宅を訪問させていただきました。先生と、もうお話をすることはできませんが、「おらが(私の)学校、浦庄教育を頼んだぞ。」というお声が聞こえたように思いました。今回は、校訓を通して私の思いを語らせていただきました。保護者のみなさまのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

